

スクエアード・ストレイト方式による交通安全教室を通して、自転車の安全な利用の仕方について考える学習の事例

交通

高等学校 1～3学年 特別活動（学校行事）

授業づくりのポイント

- 通学実態や課題について理解させるとともに、交通安全に向けての改善点について確認し、他の生命や安全の大切さを理解させる。
- スクエアード・ストレイト方式の交通安全教室に参加することで、事故の危険性について体感し理解を深める。

単元について

- 1 題材名 「交通法規を遵守し、自転車の安全な利用の仕方について考える
～スクエアード・ストレイト方式による交通安全教室を通して～」

2 目標**II－2 自転車の安全な利用と点検・整備**

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な運転ができるようとする。

II－3 二輪車・自動車の特性と心得

二輪車・自動車の特性について理解し、道路の安全な歩行ができるようとする。

3 教材化の視点

生徒自らが日常の交通安全について、理解と改善が図れるよう、「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」を実施し、通学時の交通に対する生徒の意識は高まってきた。そこで、通学時のみならず日常生活時でも交通ルールに対する意識を更に高めていくために、「教科等における安全学習」でスクエアード・ストレイト方式による交通安全教室を計画した。スタントマンによる交通事故の実演や警察署の方による指導を通して、自転車事故の現状や重大さについて理解を深めさせ、自転車利用時に交通法規を守り、被害者にも加害者にもならないための交通安全意識を高める。

指導計画（3時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○『交通安全チェック』アンケートに答え、自分の交通ルールに対する意識を確認する。	○交通安全チェック時に、チェック項目の法令や違反時の罰則が分かる資料を配布し、生徒に意識付ける。
2 (本時)	○スクエアード・ストレイト方式による交通事故の実演を見学する。 ○ワークシートに記入することにより、自分自身の歩行及び自転車運転における改善を明確にする。	○少しの油断や交通法規違反から命に関わる重大事故が起きてしまうことを実感させる。 ○ワークシートは意識の変化を理解するために、事前アンケートと事後アンケートで対比できる内容を設定する。
3	○警察の方をゲストティーチャーとして招き、自転車事故と加害責任についての講話を聞く。	○加害者となった場合の事故例を紹介してもらい、交通法規を守って自他の安全に気を付けた乗車ができるようにする。

指導事例（第2時／3時間）

1 ねらい

- 交通事故の怖さや自動車の特性を知り、危険を回避する能力を養うとともに、交通法規を遵守する意識を高める。

2 ポイント

- スタッフによる交通事故の実演（スケアード・ストレイト方式）を見学することにより、交通事故の発生原因や自転車の危険運転について理解する。

3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点	■評価（評価方法）
導入	<p>○ 本時のねらいと学習内容を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自転車事故を起こさないようにするためにには、どうすればよいか。</div>	<p>○ 通学時を含む日常生活の歩行や自転車の乗り方、交通事故の状況を説明し、今回の交通安全教室の目的や意義を理解させる。</p>	
展開	<p>○ スケアード・ストレイトによる交通事故の実演を見学する。 【実演内容】 ①時速40kmで走行する乗用車と自転車の衝突事故の再現 ②走行違反した自転車の衝突事故の再現 ③見通しの悪い交差点での飛び出し事故 ④大型車の内輪差による巻き込み事故 ⑤信号無視した自転車の衝突事故 ⑥自転車の傘さし走行による接触事故 ⑦自動車の死角による横断歩道上での事故 ○ 警察署の方による講話を聞き、交通ルールの重要性について学ぶ。</p>	<p>○ それぞれの場面において、解説や發問を行い、事故の原因や影響について考えさせる。 ○ 自分の問題として考えるよう助言する。 ○ 自転車の危険な乗り方は自分だけでなく、他人を巻き込んでしまうことを自覚させる。</p> 	
まとめ	<p>○ 気付いたことや自分の気持ちの変化、改善点について、ワークシートにまとめる。 (各教室にて)</p>		<p>■ 交通規則遵守の重要性を理解し、自分自身の歩行及び自転車運転における改善点を明確に、ワークシートに書いている。(ワークシート)</p>

生徒の感想

- 今まで特に意識せずに自転車を運転していたが、授業を通して、安全運転に気を付けて自転車走行したいと思った。急いで運転していた時に、危ない思いをしたことがあった。交通事故に遭わないためにも、早起きをして急いで通学しないように心掛けたい。「交通事故は災害と違って心掛け一つで防げるもの」という言葉が胸に響いた。
- トラックの内輪差が大きいことや、自動車の運転手には大きな死角があることに驚いた。交差点では、運転手とアイコンタクトをしてから走行したい。事故の現場を解説してもらうことで、当たり前と思っていたことが、そうではないことがよく分かった。

生徒の変容

- 自転車通学時にイヤホンを付けたまま走行する生徒、スマートフォンを使いながら走行する生徒、傘さし走行する生徒はいなくなるなど、交通法規を遵守して運転している姿が増えた。交通事故の無事故期間が長期にわたり継続するなど、生徒の交通安全意識が高まった。